

シーン4 ミミとHなおもちゃ遊び

「ほらほら、入ってよ、お兄さん。ミミのお部屋だから、遠慮はいらないよ。ちよっとおもちゃが散らばってけど、ミミ悪い子だから問題ないよね」

「あ、そこに座っててね。今日はお兄さんと、ここで遊びまうす」

「んしょっと、このおもちゃ箱をひっくり返して、っと」

「見てみて、ミミのエッチなおもちゃが、たくさんあるよ」

「アナルバイブに、オナホ、ローションもね♪」

「——ねえ、どうしたの、お兄さん」

「後ろから声かけて、びっくりさせちゃったかな。だって、お兄さんってば、エッチなおもちゃばかり、ずいっと見てるから——もしかして、これで遊びたいのかなあ？ くふふっ」

「なんか、お兄さん、挙動不審すぎ。くすす、何、どうしたの〜？」

「ミミのおっぱい、むにむにっって背中にあたってるの、気になっちゃうんだ」

「真面目な顔してても、お兄さん、本当にむつつりスケベさんだよね♪」

「そんなお兄さんは、催眠洗脳で『おさるのぬいぐるみ』になっちゃえ」

「くすす、お兄さんにぴったりでしょ」

「ほら、お兄さんは『おさるのぬいぐるみ』だよ。んふふっ♪ 催眠、だんだんと効いてきたみたいだね。お兄さんはぬいぐるみだから、手も足も、動かせないよ」

「はい、これ何かわかるよね、くすすっ。オナホだよっ♪」

「お兄さんはぬいぐるみで、おさるのたろう君みたいなもんなんだからね。今からあ、おさるのたろう君の大好きなオナホで遊んであげますね〜♡」

「くすす、うれしいでちゅかあ？」

「オナホでオチンポじゅぶじゅぶ扱いちゃいますよ♪」

「ほら、動けないたろう君のオチンポ、ミミが出てあげまちゅね？」

「あは、もうこんなにおっきくして、いけないコですね、めっ、ですよお」

「オナホの中にた〜っぷりローションを流しこんで、っと」

「くすす、これで、濡れ濡れおまんこの完成、だよ♪」

「それじゃ、オナホをチンポの先っぽにあてがって、少しずつ、少しずつ。チンポの先が、オナホにはいつていくよ、くすすっ」

「ああ、雁首まで、入っちゃったあ。あと少し、奥まで、えいいいっ♪」

「くふふ、一気にぜんぶ入っちゃったね」

「どう、オナホの締めつけ具合は。ほら、小刻みに動かすと……本当のおまんこみたいに、中のヒダヒダが絡んできて、気持ちいいよね」

「ここからが本番だよ、たろう君♪」

「じゅっぽじゅっぽ、オチンポ、た〜くさんしこしこ、扱きまくってあげる♡」

「ほらあ、どう、気持ちいいかな？　ぐっぽ、ぐっぽ。ぐっぽ♡」

「もっといっぱい動かすよ、じゅぼじゅぼじゅぼッ、じゅぼじゅぼじゅぼッ♡」

「大好物のオナホ、ミミみたいな、こんなちっちゃい子にオナホコキしてもらうなんて、ヒーロー失格だよね♡」

「あ、今はオナニー大好き、エッチ大好きなさるのぬいぐるみのたろう君だったっけ？」

「んふっ♡　今、ぴくってした♪　たろう君のおちんちん、すっごく元気♡」

「たろう君っ、我慢しないで、もう射精しちゃえッ♡　オナホで勃起チンポの雁首、ごしごし、ぐっぷぐっぷ刺激しちゃうよお♡　ほらほらほら、ほらほらほらああああッ♡」

「出しちゃえ♡　出しちゃえ♡　出しちゃえええ♡♡♡」

「ざーこなオチンポから情けなく、びゅ〜びゅ〜、びゅっびゅっびゅ〜って」

「ヒーロー失格ザーメン、た〜っぷり出しちゃえっ♪」

「オナホに、びゅくびゅくびゅくうう、びゅくるるるるって」

「い〜っばい吐き出しちゃえ♡　無駄打ち射精っ、しちやええええ——ッ♡♡♡」

「きゃはははッ、出た、出たあ、たろう君、おりこうさんでちゅねえ♡」

「いっっぱいザーメンをオナホに出せまちたねえ、んふふ」

「このオナホを抜いて、あは♡ たろう君のザーメンでドロドロ」

「中から、出した精液が零れてきて、ん？ 飲んでほしい？ メスガキに♡ いつもみたいに♡ 負けてザーメン飲んでほしいの？」

「いいよ、素直になってきたご褒美に目の前で、オナホに負けたおさるさんのザーメン飲んであげる……んうう、はふうう、んじゅるるるッ♡」

「はふう、生臭くて、濃くって、はぁぁぁ、悪い子の味がするッ♪」

「たろう君、まだ動けないよね、くすすっ♡」

「このままザーメンまみれのお口で、んちゅ、キスしよ♡」

「んちゅ、ちゅ、ちゅぽっ、ちゅぽっ、はふうっ……何よ、このオチンポ。ミミの精液臭いお子様の唇で勃起してるの？」

「そんないけない、おさるのたろう君にはこれ、アナルバイブだよ♪」

「その名の通り、お尻専用のバイブで、ブルブル動いちゃうんだよ。見てこれ♡ 近くでちゃうんと見てね♪ このバイブがお尻の中に入っっていっちゃうんだよ」

「もっと、バイブに顔を近づけて、えいっ♡ たろう君のお口で、しっかりしゃぶってね」

「そうだよ、ちゃうんと、濡らすんだよ、くすすっ」

「こうして、先っぽをお尻にあてがって、こちよこちよこちよ、くすす」

「何、どうしたの、おさるのたろう君は、アナルにバイブを入れてほしいんだ？」
「じゃあ、アナル好きのたろう君のお尻にい、それ、ずぶぶぶっと♡」

「一気に奥まで突きこんじゃうよお、ほら、肛門が広がって、中がすくすくしない？」
「それで、ちょっとずぶずぶ動かすだけで、ほらあ、腸の中が擦られて、すっごくいけない気持ちよさ、感じちゃうよね？」

「ここでバイブのスイッチを入れちゃうよ。最初は、調節メモリを弱からいくねッ……どう、すごいブルブルくるよね？ 変態におさるさんにはちょうどいいかも♡」

「なに、あひあひ、声出して。もう、本当におさるさんになっちゃったの？」
「気持ちよすぎて、頭、バカになっちゃったんだあ、くすすすッ」

「お兄さんは、もう完全におさるのたろう君なんだね、きゃはははッ♪」

「前も勃起して寂しそうだから、ほらあ、オナホで、んしょっと包みこんでっ」

「オチンポも、ミミがたっくさんコキコキ、扱いてあげるね♪」

「ほらほらほら、いけ、いっちゃえッ、お尻をバイブでぶるぶるされながらあ、オチンポはオナホで射精しちゃえッ♡」

「オナホを、いっっぱい、ずぼずぼッ♡ ずぼずぼッ♡」
「ほらほらほらあ、ずぼずぼッ♡ 出せ、出しちゃえッ♡」

「オチンポから射精ッ、しちやえッ♪　びゆくびゆくびゆくうう♡　びゆくるるる、びゆくるん、びゆくくつ、ってザーメン射精、しちやえッ♡」

「もう限界寸前だね、おさるのたろうお兄さん♪」

「ほら、これでとどめだよ。パイプの調節メモリを一気に、強へ入れちゃうよ!!」

「一緒にオナホもいっぱい動かしちゃうよ、それぞれそれええッ♡」

「いっっぱい、びゆくびゆくって、チンポ汁、どぴゅらせちゃえッ♪」

「きゃははははッ、アナルパイプを強にしたら、ザコオチンポ勃起すっごいことになってるよね」

「おさるのたろうお兄さん、もう出ちゃうんでしょ？」

「どろっどろのいやらしいザーメン溢れさせちゃうんだよね？」

「そら、出セッ、出セッ、オナホ、おもいっきり動かして、ザーメン搾ってあげるね」

「ほらぁ♡　ぐちゅぐちゅぐちゅ、ぐちゅぐちゅぐちゅ♡」

「射精、ザコーいお兄さんの好きな敗北射精♡　全部吐きだしちやええッ♡」

「あはぁ、もう出るね、オチンポ、びっくんびっくんさせてえ」

「オナホごしにも、チンポが射精したがつてるの伝わってくるよお♪」

「くふふっ、もう出したくって仕方がないのに、ほらぁ無駄な抵抗、やめたらぁ♡」

「精液、チンポの先まで、もう来てるんだよね？　いまさら意地張っても無駄だって、きゃはははッ！」

「どうせなら、射精猿のたろうお兄さんが、ザーメンを情けなく、ぶちまけるところ、しっかり見てあげるッ」

「んしょっと、オナホを、一気に抜きながら、アナルバイブ奥まで、押しこむよお……」

「同時にねッ、それええええ——ッ♡♡♡」

「あはっ、いったあ、今、お兄さん、いったよね♡」

「メスみたいな変態マゾ声出して、きゃははッ、ザコチンポから、びゅくびゅく、ザーメン射精してる♡
♡ いっぱいチンポ振り回しながら、精液お漏らし、くふふふ、最高すぎ♪」

「とっても立派なオナニーザルだね、お兄さん。ザコヒーローからザコおさるさんに昇格だ♡」

「お兄さんはザコなんだからメスガキ怪人のミミに負けると喜んでザーメン噴き出して降参しちゃうのは仕方ないんだよ」

「ミミにもっといっぱい負けて、エッチで素直な悪い子になろうね」